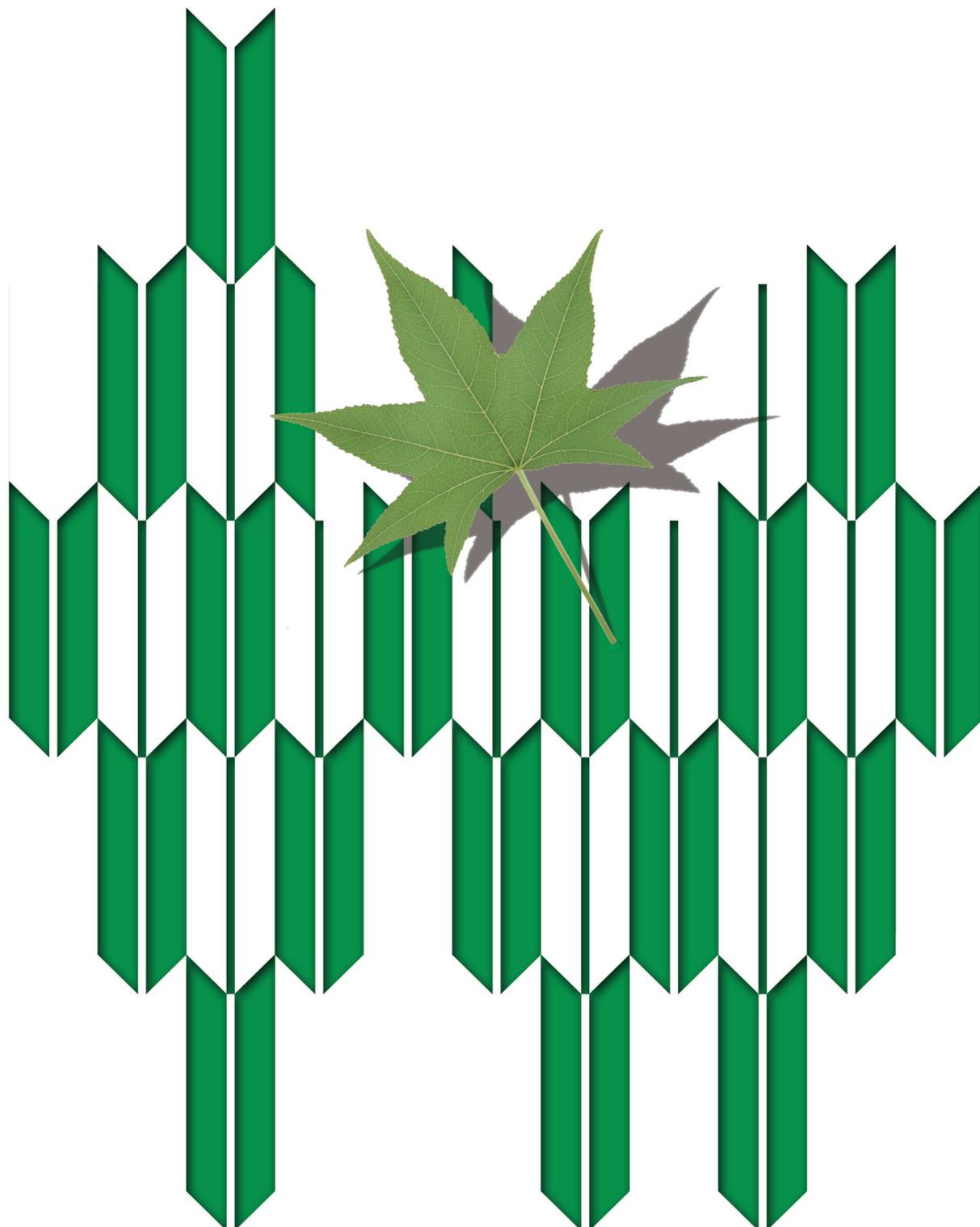


生涯学習情報誌

Life Learning

11

2017
Nov.
NO.327



2017(平成29)年度

12/15
締切

博士号

取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとらわれない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作り貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年
- ・支給日は2018年3月

■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者

・日本国内の大学で博士号を取得する予定の者

- ・日本語で論文を作成する者
- ・品行方正、勉強に熱意を持っている者

■ 応募方法

(1) 提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

(2) 応募締切日

2017年12月15日(金) 必着

■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 博士号取得支援事業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-21 新虎ノ門実業会館2階 TEL 03-3508-4551
募集要項・申請書は <http://www.gllc.or.jp> E-mail hakushi@gllc.or.jp

ありがとうございます!

「松田理事長 卒寿のお祝い」が10月3日、東京アメリカンクラブに於いて開催された。松田妙子を慕う各界で活躍される方々約150名が来場。テノール歌手・榛葉昌寛さんと会場の皆で「ハッピーバースデー」の大合唱に促され、松田理事長が誕生祝いケーキの90の形をしたロウソクの火を吹き消した。ごあいさつでは「私が大好きな方々が、こんなに集まって誕生日を祝ってくださりとてもうれしい」と謝辞を述べた。

財団のLLメンバーズ交流会でもおなじみの、テノール歌手・榛葉昌寛さんと来場者で「ハッピーバースデー」の大合唱。理事長も一息で火を消して応えた。



↑草月流勅使河原茜家元が、当日朝から準備して下さった大きな生花。

←↓謝辞とともに、「若い人がんばれ!」と檄。



司会進行は伊藤里奈さん。



↓→テレビでも拝見する各界を代表される方々が。



松田妙子の足跡がスクリーンに映され、住宅産業研修財団で理事長秘書を長く務めた本田こずえさんが解説。秘書だからこそ知る📺エピソードも披露された。

卒寿を祝っていただき、

2か所の大スクリーンで松田妙子の足跡が紹介される中、到着した福田康夫元総理による祝辞と乾杯。会場では笑顔あふれる交流と写真撮影が、お開きの間際まで続いた。

●福田元総理の祝辞

「松田先生、卒寿おめでとうございます！ お父様の松田竹千代先生以来ずっとお世話になっていますが、妙子さんが政治の道に進んでいたら、すごい政治家になったと思います。私が住宅政策の指導を仰いだ際には、熱く厳しく教えてくださいました。男勝りなご活躍の一方、料理が大変上手で、ご家族思いの家庭的な一面もあります。まだまだ現役でご活躍のうえ、ご指導ください！」



↑元衆議院議員で弁護士の相澤英之さんと妻の司葉子さんからのお祝いの言葉。

→東京オリンピックに向けて陸上界をリードする横川浩日本陸連会長も。



→福田康夫元総理から、会場の笑いを誘うエピソードも挟んだ絶妙のご祝辞をいただいた。

↓元総理の音頭で乾杯！



なんと最後は万歳三唱まで。



理事長と一言&ツーショットしたい方がひっきりなしに。



みんな写真を撮りながら元気をもらおう。

←樺葉さんからお祝いの歌。



←理事長おつかれさまでした！ 後列は左から、長女で財団事業部長の佐藤梨奈、長男の佐藤公啓さん、次女の佐藤玖美さんと。



ザ・シチズンズ・カレッジ共催講座

9月13日 銀座フェニックスプラザ

ドキュメンタリー

「銀座裏通りの職人たち」製作秘話

世界に発信「銀座の職商人」たち

お二人は中学校以来の友人である。映画監督の鈴木勉さんは現在、映画「God's NINA details……銀座裏通りの職人たち」の製作を進めている。その監督にあたる渡辺新さんは、銀座で87年続くテーラー・壹番館洋服店の3代目店主。銀座の若手経営者のリーダーの一人でもある。

鈴木 この映画を撮るきっかけですが、私は港区の育ちで、大規模都市開発によってとうとう実家がなくなることになりました。それを知ったとき、変わりゆく東京の街やそこで生きていく人を撮りたいと思っていたのです。ちょうど、隣の渡辺くんが本を出したのでお祝いに集まった。柔道部だった彼の文才には期待してなかったのですが、銀座で長く商いをする先輩たちのインタビューがめっちゃくちゃ面白い。翌日電話をして「これを映画にしたい」と言っていました。彼も「ぜひ進めて欲しい」と、始まったのが2015年の春でした。

渡辺 銀座には通り会や町会などがたくさんありますが、それらを束ね銀座全体の意思決定をする、全銀座会という組織が2001年にできました。ある日、遠藤会長から、若手経営者の会・銀美会ぎんみの会長（当時）だった私が呼ばれて、「銀座のソフトの部



渡辺氏



鈴木氏

講師

鈴木 勉

1965年生まれ。映画監督。銀座を支える職人たちの技と街の魅力を世界に発信するドキュメンタリー映画を製作中。

渡辺 新

1966年生まれ。壹番館洋服店店主。著書に『銀座資本論 21世紀の幸福な商売とは何か?』

分の今後や問題点を、若手で研究してほしい」と言われました。そこで20名くらいの銀座の先輩方を訪問し、「先輩、銀座の『商い』ってなんですか？」と質問し、お話を小冊子にまとめました。それがどんなビジネス書にもない深い話で、冊子発行後もまだまだ聞きたい。いっそライフワークにしよう」と取材を続け、店のお客様へ記事をお届けしていたら、出版社の友人が「本にしよう」と言ってくれ、それを読んだ勉ちゃんが映画にしようと言ってくれたわけです。

鈴木 ぼくらの世代は、銀座で服を買う、銀座で飲むっていうと、ちょっと敷居が高く感じていました。でも、裏通りで何代も続く老舗のご主人の話を読んで、こんなに下町っぽい街なのか、この歳になるまで銀座の魅力が全然知らなかった、店主の技やプライドに触れたいと素直に思いました。

渡辺 銀座の店は、店主が職人であり接客もする「職商人」で、お客様によって鍛えられるんです。お客様が銀座にふさわしくないと感じる店は自然淘汰されてきました。逆に気に入れば、行きつけの店として何十年もご愛顧くださいます。先日うちの店に、60年前にお祖父さんが着てた服を直してほしいというお客様が来店されました。

鈴木 すきやばし次郎の店主・小野二郎さんを描いた映画『二郎は鮨の夢を見る』が、日本の職人技を世界に伝えた意義は素晴らしいのですが、銀座というの街との関わりは描かれていませんでした。今回の映画では、いずれも日本を代表する実力を持つ、仕立て屋、寿司屋、和菓子屋、バーの4軒を軸に、銀座の魅力を描きます。

渡辺 近年表通りに海外ブランドが並んで雰囲気は明るいのですが、少し空港っぽくないですか（笑）。本田宗一郎さんが昭和40年に「国際的とは人の真似をしないことだ」と言ったと知ってすごい人だなと。銀座にしかない商品やサービスを磨いていかないと、よくある街になってしまいます。今は海外の一流商品が買える街のイメージですが、今度のオリンピック後の50年を考えると、日本中の素晴らしいものを世界に発信する街であるべきと考えます。

鈴木 ある陶芸作家の方が「未熟を個性と勘違いしてはいけない。商品として人を満足させる水準になってからの個性」と言っていました。銀座はその水準に達した店が多いので、これから強く個性を打ち出せる位置にあると思います。先人が残した銀座の宝をさらに磨いて、世界に輝ききつかけに、映画がなればと思います。

*

この対談の数日後から撮影が始まった。2018年2月完成披露予定。資金提供・サポーターは引き続き募集中で、詳しくは、<https://www.ginzaiga.jp/>から。